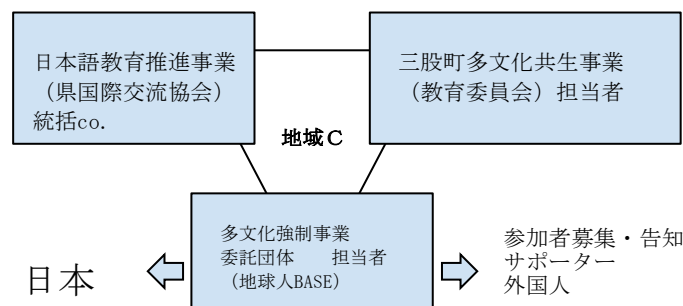


三股町地域日本語教育の実践活動報告書

西 1 荒井圭美

宮崎県日本語教育推進事業において県西部地区地域コーディネーターとして三股町を中心に4年間活動。本年度は三股町にて年6回の地域日本語教室を開催した。

三股町 人口 25000人
外国人住民 160人
技能実習生65%
20代以下 58%



【事前打ち合わせ】

開催1か月ほど前に統括CO、地域CO、教育委員会担当者、地域団体担当者で内容確認を行い、広報、募集などの役割を確認し、準備をはじめめる。

実施日の1週間前に地域COが担当者と再度進捗状況の確認を行う

【実施】

第1回 8月6日 テーマ「三股ってどんなまち」外国人参加者 11人 サポーター3人

三股の広報、観光案内をみながら、サポーターさんのお勧めの場所や、食事や買い物などに便利なお店などを教えてもらった。初対面だったが、みなさん話が弾み、楽しい時間が作れた。お茶やお菓子も持ち寄り話題づくりのきっかけとなった。同郷や、近所に住んでいることがわかり、連絡先を交換している様子も見られた。

第2回 9月10日 テーマ「防災」外国人参加者 6人 サポーター7人

都城警察署の警備・防災課の協力で防犯、事故、防災をテーマに講話を行った。やさしい日本語で話されているようではあったが、小学生に話されているような日本語で、外国人には理解が出来なかった。質問コーナーや、警察への電話のかけ方、受け答えのロールプレイ、防災用持ち出しバッグの紹介も行った。前回参加したサポーターが友だち家族を連れてきてくださり、学生サポーターが5人もいて広がりが出た。社協の呼びかけでフリースクール(不登校)の学生の参加もあった。いろいろな意味で多文化共生の場となっていた。

第3回 10月8日 テーマ「買い物へいこう」外国人参加者 8人 サポーター3人

ワークシートを使い、チラシを見ながら、買い物の失敗談や、買いたいものなどを確認した。その後近くのスーパーでグループに分かれ、買い物タスクを行った。また教室に戻り、ワークシートに記入した気づきや、学びをシェアした。サポーター初参加の方は外国人との接し方に不安そうだったが、楽しい時間が過ごせ、気づいたことを発表してくれた。今回も社協の呼びかけで1名参加。

第4回 11月5日 テーマ「出かけよう 電車・バス」外国人参加者 2人 サポーター3人

ICカードの購入利用方法、電車の乗り方、バス乗り放題チケットの紹介など3連休で参加者が少なかった。サポーターが習字や、折り紙など、準備して下さったので、活動を通して会話が増えた。

第5回 12月10日 開催予定 テーマ「年末年始」 外国人参加者 5人 サポーター2人

年末年始のあいさつ、風習などについて学び、筆ペンで年賀状を書く体験を行った。雑談の時間も多く取り入れた。

第6回 1月14日 開催予定 テーマ「病院へいこう」 外国人参加者 7人 サポーター2人

講師が元看護師だったため、経験から、受付の流れ、問診表の書き方、症状を伝えるオノマトペなどを学んだ。体の細かな名称は、在住歴の長い方でもわからないことが多く、いい機会となった。

<p>【外国人参加者の特徴】 三股町の多文化共生事業である個別日本語サポートの利用者(初級者) 技術者、家族での参加(初級者) 技能実習生(日本語学習に意欲あり)</p>	<p>【サポーターの特徴】 国際交流に興味がある 日本語教育に興味がある 英語を話したい 社協とのつながりから参加</p>
--	---

【課題と改善】

①外国人参加者について

参加者は三股町多文化共生事業日本語個別サポートの利用者が多く、初心者で、固定メンバーになりつつある。⇒ 広く参加してもらえるよう、レベルに関係なく、気軽に参加でき、地域の交流ができる活動が必要である。

②サポーターについて

日本語教育の知識がなくても、気軽に多文化交流を行う楽しさを体験できる活動であるが、受け身になっている。⇒ サポーターも自分の経験や知恵、知識をシェアし、活躍できるような活動が必要

③日本語教師

現在地域団体に登録している日本語教師は6名だが、都合がつかなかったり、感染症のため不参加になったり、他地域の教師や、自身が教師を行うことになった。この教室の講習料は一般的より高めであるが、それでも講師の確保はたいへんである。多くの日本語教師は副業のため、スケジュールや準備などが難しいようだ。⇒当日の運営を責任もって行える人材を確保したい

④会場

町内3エリアで開催したが、周知されていないためこの会場でも参加者は同じになっている。また、車を持っている人か、サポーターが送迎しており、自力での参加が難しい。⇒開催予定公民館の近くの住民(外国人、サポーター)に参加してもらえるよう、回覧板や町の広報、ポスターなどで参加を呼びかける。

⑤広報について

Facebook、Instagram、HP、@LINE、広報、回覧板、郵送おしらせ(年1回)、ポスター、置きカード
どれも反応があまりない。参加者の口コミによる広がり期待したい。

【コーディネーターとしての振り返り】

地域日本語教室をの目的、運営方法について関係者会議で協議した

→活動の目的・・・自立生活のための日本語教育の支援、多文化交流の場づくり

日本人と外国人が共に安全で暮らしやすい町になってほしい。

地域が分断されず、お互いのコミュニティを緩やかに行き来できる関係であってほしい

→運営見直し・・・行政内事業or委託? 予算、日本語教育CO、教師、サポーター、外国人サポーター

本年度は、関係団体と連絡を取り合い上手く調整し、教室を実施できたと思う。また、警察署、社会福祉協議会とも協力関係をつくれた。小さな町が無理なく継続できる地域日本語教育のスタイルとはどんなものか。

参加人数が少ないと、この活動は本当に必要なかと考えることもある。しかし、セーフティーネットとして、いつでも外国人住民をサポートできる体制を整え、継続していく事が大切だと考える。

次年度以降、三股町が自走できるよう、これまでの活動で得られたもの(協力団体、サポーター、参加者、日本語教師、参加者の感想など)をまとめ、システムを構築することが、今後の課題であると考えている。